

財務戦略・株主還元方針



将来予測が困難な中、環境変化に柔軟に対応していくことが重要です。

鈴木 啓太 取締役
代表執行役専務 CFO

新CFOメッセージ

この4月にCFOに就任いたしました鈴木です。中期経営計画2026(MTP2026)の初年度となりましたFY2022は、半導体不足をはじめとしたサプライチェーン問題の継続や、中国におけるゼロコロナ政策による混乱、ロシア・ウクライナ情勢の長期化、そして材料およびエネルギーコストの上昇など当初想定していた事業環境よりも厳しいものとなりました。こうした変化の激しく不安定な環境の中では、将来予測をすることは非常に困難であり、その変化に対してこれまで以上にすばやく適切に対応していくことが重要だと感じています。

当社の企業理念体系には「しなやかに、限りなく

MOTION & CONTROL™」というコーポレートメッセージがありますが、「しなやかに」は、弾力性、円滑性、粘り強さ、柔軟性、技術レベルの高さ、そして企業および社員の姿勢を象徴しており、「限りなく」は、価値を創造し続けること、成長し続けること、貢献し続けること、という企業としての目標、使命に対する姿勢を表しています。まさに環境の変化が激しい今、NSKが一丸となり強さや柔軟性、適応力を発揮していきたいと思えます。

企業の存在価値とは、事業活動を通して収益を上げ、その収益を活用して社会課題を解決していくことであると考えます。そのため、環境変化に対応しMTP2026で掲げている目標の達成に向けた舵取りをしていくことがCFOとしての私の役割です。そして、ステークホルダーの皆様とともに社会の発展に貢献し、持続的な企業価値の向上を目指していきたいと考えています。

MTP2026初年度(FY2022) 財務成果の振り返り

FY2022は、材料・エネルギー・物流費等のインフレが一段と進行した影響を受けたものの、為替の円安効果に加え

て、インフレに対する売価転嫁を推し進めたことにより、売上高、利益が対前年で増加し、健全な財務体質も維持できています。しかしながら、MTP2026の経営目標に掲げているROE10%に対し、FY2022の実績は3%と乖離があることは課題です。インフレによるコスト上昇の売価転嫁方針を徹底するとともに産業機械事業の比率の拡大を中心としたポートフォリオ変革の推進、そして生産の超安定化によるアウトプットの増大など資産効率向上の取り組みを進めていきます。

利益還元については、増収増益となったことや今後の事業環境等を総合的に勘案した結果、FY2022の1株当たり配当金は、FY2021の25円から5円増配した30円としました。配当性向と総還元性向は共に83.6%となり、MTP2026の目標である50%を上回っています。

なお、財務活動では、各国中央銀行の金融引き締めに伴う景気後退懸念が存在することから、今後の資金需要を見越して低金利かつ安定的な資金を確保する目的で社債を2回発行し、合計430億円を調達しました。

また、FY2022においては、従前から進めている政策保有株式の縮減に加えて、当社が設定する退職給付信託へ拋出した株式の一部売却も実施しました。

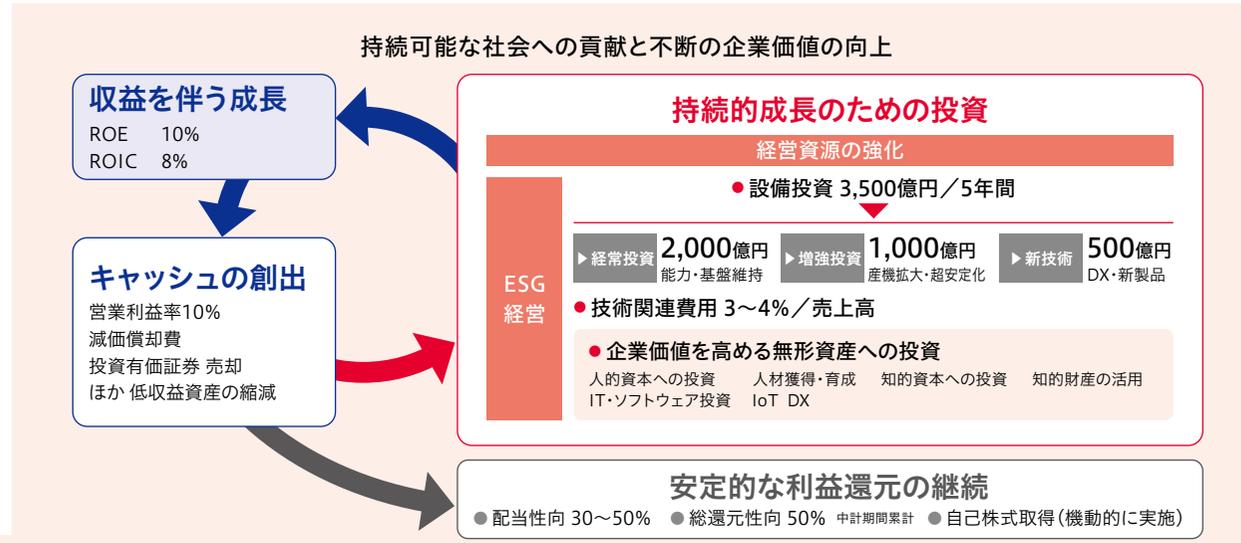
財務戦略の基本方針	経営指標	MTP2026目標	2023年3月期実績	評価・コメント
財務安定性の維持	ネットD/Eレシオ	0.4倍以下	0.29倍	健全な財務体質を維持
収益を伴う成長	ROE	10%	3.0%	ROE10%とROIC8%の達成にこだわった運営を継続
	ROIC	8%	2.1%	
安定的な利益還元	配当性向	30%~50%	83.6%	配当金 30円/株 安定的な利益還元を継続
	総還元性向	50%	83.6%	

MTP2026 財務戦略・株主還元方針の概要

MTP2026では、持続可能な社会への貢献と不断の企業価値の向上を目指すために、安定した財務体質の下、収益を伴う成長を遂げてキャッシュを創出することにより、当社の持続的成長のために必要な投資と株主の皆様への安定的な利益還元資金配分を継続することを、財務戦略の基本方針としています。当社の株主資本コストを上回る「ROE10%」などMTP2026で掲げた経営目標の達成にこだわり、これらの目標を中長期的に達成し続けることが、株主価値の向上につながると考えています。

また、機動的な自己株式取得も株主還元の選択肢の一つであり、2023年5月から6月の間で2,500万株(約220億円)の自己株式の取得を実施しました。加えて、2023年8月には約5,100万株の自己株式の消却を行いました。

MTP2026 キャッシュ・アロケーション



財務安定性の維持

NSKの持続的な成長を支え、景気変動の影響にも耐え得るには、「財務安定性の維持」が前提となります。自己資本比率、ネットD/Eレシオ、手元流動性など、当社グループの財務健全性を示す指標は健全性を保って推移しています。

▶ P.66 主要財務ハイライト

MTP2026では、ネットD/Eレシオの目標を0.4倍以下とすることで、安定的な財務基盤を確保しつつ機動的かつ効果的な有利子負債の活用も図っていきます。

格付投資 情報センター(R&I)	日本格付 研究所(JCR)
A	A+

収益を伴う成長

キャッシュを創出して、持続的な成長を達成するための設備投資や研究開発投資、さらにはESG経営に必要な人的資本などへ投資を実施し、株主の皆様へ安定的な利益還元を継続するためには「収益を伴う成長」を持続的に達成することが必要です。NSKでは、過去の株価動向と事業特性、および株式市場の現況から推計した当社の株主資本コスト(概ね8%~9%)を上回る「ROE 10%」を経営目標としています。また、経営目標の1つに「ROIC 8%」を掲げ、低収益資産の縮減を進め、資産効率の向上を図っていきます。

安定的な利益還元

株主の皆様に対する「安定的な利益還元」は重要な経営方針の一つであり、MTP2026においては、配当性向30%~50%を目標に、株主の皆様への安定的かつ継続的な配当を実施する方針です。また、機動的な資本政策の手法として、自己株式の取得も選択肢の一つであり、キャッシュ・ポジションや株式市場の動向等を勘案して適切かつ機動的に実施したいと考えています。配当と自己株式取得を合わせた総還元性向は、MTP2026の期間累計で50%とすることを目安としています。

■「安定的な利益還元」の継続

- MTP2026**

 - 配当性向30~50%
 - 総還元性向50%程度 (MTP2026期間累計)
 - 自己株式取得 (機動的に実施)

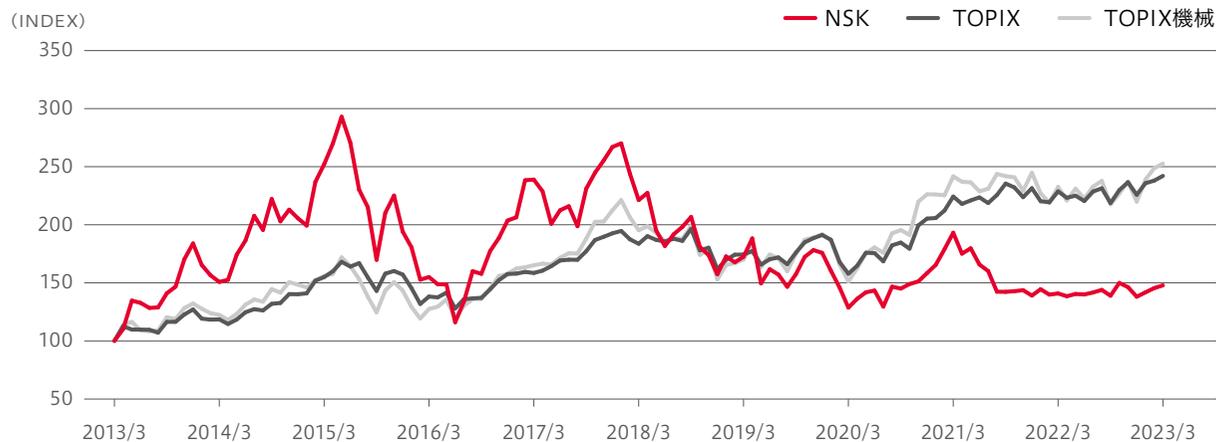
安定的・継続的な配当の実施と企業価値の向上により
TSR (株式トータルリターン) を
拡大

NSKの株価パフォーマンス(10年間)

NSKの株価パフォーマンスを過去10年間見ると、2019年以降、TOPIXやTOPIX機械を下回っている状況が継続しています。コロナ禍以降、サプライチェーン問題の継続等もあり、グローバル自動車生産台数が思うように回復してこなかったこと、加えて当社ステアリング事業の売上減少や、材料等の急激なインフレなどで収益性が低下したことが、株価が700～900円のボックス圏をなかなか抜け出せず、ひいてはPBR1倍割れにも影響していると考えています。

株価は業績だけではなく市場動向や経済情勢等様々な要因によって形成されるものではありませんが、当社では営業利益率10%以上に収益力を高めること、安定的な利益還元の継続に加えて機動的な自己株式の取得を実施すること、資本効率を改善してROE10%を達成することが、株式市場での評価につながると考えています。

■ NSKの株価パフォーマンス(10年間)



※2013年3月末日の終値を100とした配当込み株価指数の推移

■ 年度ごとの株価推移

年度	最高値 (円)	最安値 (円)	年度末 (円)	ボラティリティ
2013	1,360	646	1,062	45.7%
2014	1,815	1,023	1,758	32.6%
2015	2,120	910	1,030	39.0%
2016	1,739	691	1,592	44.3%
2017	1,916	1,261	1,426	28.5%
2018	1,488	885	1,037	26.1%
2019	1,208	579	694	33.7%
2020	1,202	581	1,135	43.2%
2021	1,141	630	736	30.6%
2022	803	680	756	23.6%

※ ボラティリティは、日次終値ベースの標準偏差を年率換算

■ TSR

投資期間	1年		3年		5年		10年	
	累積/年率	累積	年率	累積	年率	累積	年率	
NSK	6.8%	19.7%	6.2%	-36.8%	-8.8%	47.8%	4.0%	
TOPIX	5.8%	53.4%	15.3%	31.8%	5.7%	142.1%	9.2%	
TOPIX機械	8.6%	67.1%	18.7%	29.3%	5.3%	152.6%	9.7%	

※ TSR (Total Shareholders' Return): キャピタルゲインと配当を合わせた総合投資収益率

※ いずれも配当込み指数

※ 年率換算は幾何平均

※ Quick Factsetデータより当社作成

NSKの財務ロジックツリー

NSKの財務ロジックツリーは、株主価値増大のためにNSKグループの経営課題や経営戦略をどのように株主価値の向上につなげていくのかを、MTP2026の数値目標や関連指標との結びつきにより図式化したものです。

財務の視点からは、株主価値を増大させる要素の一部に配当と株価の成長があり、この成果は長期のTSRを用いることで検証可能と考えられています。また、一般的に、株価は資本コストの水準によっても変動するため、適正な資本コストが安定的に市場株価に織り込まれると株価変動リスクの低減につながるといわれています。

当社は、「安定的な利益還元」を重要な経営方針の一つに掲げており、コロナ禍においても株主の皆様への安定的かつ継続的な配当を実施できているものの、過去10年間のTSRは、先に述べた株価パフォーマンスの推移と同様に、残念ながらTOPIXやTOPIX機械を下回る状況となっています。最大の要因として考えられることは収益性の低下であり、MTP2026においてROEを10%に引き上げていくことがTSRの上昇、そして中長期的な株主価値の向上につながると考えます。ドライバーはポートフォリオ変革の推進で「収益を伴う成長」を成し遂げることです。さらに、政策保有株式の縮減等によりプラスアルファのキャッシュを創出し、そのキャッシュを「経営資源の強化」、「ESG経営」という持続的成長のための投資、そして株主の皆様への安定的な利益還元を継続するという好循環につなげていきたいと思えます。

また、近年ESGの重要性が高まっていることから、ESG経営を進展させる経営戦略と数値目標をNSKの財務ロジックツリーに組み込んでいます。ESG経営を推進して資本コストを低減させることも、株主価値の向上につながると考えており、財務面からは2023年9月に初のサステナビリティ・リンク・ボンドを発行しました。

